

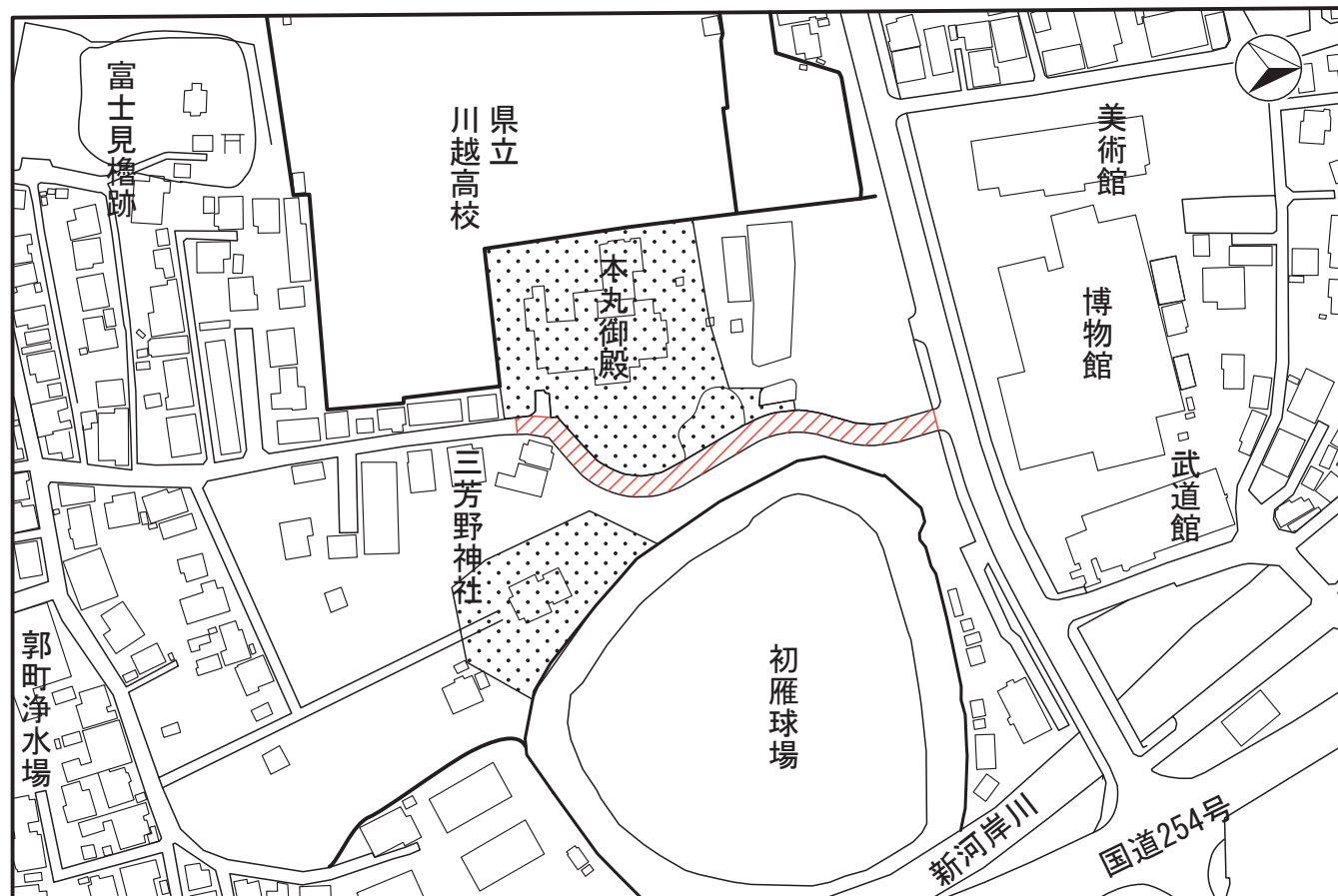
第68回川越市文化財防火訓練（文化財防火デー）の 実施に伴う交通規制のおしらせ



【規制日時】令和8年1月23日（金）

午後1時から午後2時30分ころまで
（ただし、防災訓練は1時30分から2時まで）

初雁公園（本丸御殿前）において、防火訓練を行います。訓練実施中、下図の区間において車両通行止め等が発生します。ご理解・ご協力をお願いいたします。

問合せ 川越市教育委員会文化財保護課
☎049-224-6097



- 注 1) 図中、 は車両通行止め、 は立入禁止区域を示しています。
- 2) 徒歩及び軽車両は、三芳野神社境内を通過して初雁球場脇へ通り抜けができます。

第 68 回川越市文化財防火訓練

○午後 1 時 30 分頃に出火する設定になっています。訓練現場では発煙筒が焚かれ、消防車がサイレンを鳴らして現着。放水を行います。数分間ですが、騒然となります。
○この訓練をご覧になりたい方は、本丸御殿前の球場側の駐車場までお越しください。間近に見える消防車の迫力は必見です。ただし、風向きによっては濡れますので注意。

二の丸火災と本丸御殿

江戸時代の初め頃に描かれた「江戸図屏風」では、城の中心である「本丸」に大きな御殿が描かれています。この御殿は「御成り御殿」と呼ばれ、将軍が吉見や川島辺りに狩りをしに来たときに立ち寄る御殿といわれています。その証拠に、この屏風には本丸に獲物と思われる動物が担ぎ込まれるシーンがあります。

では、城主はどこに住んでいたのでしょうか？

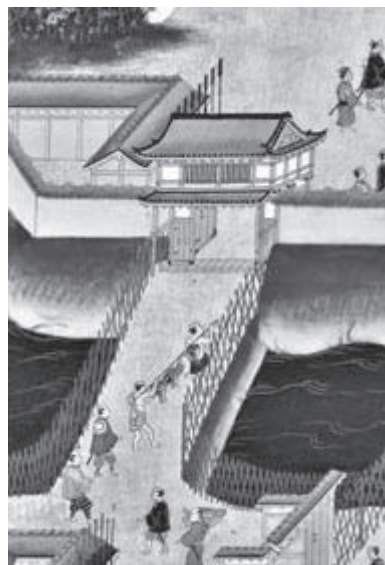
屏風の本丸御殿の下に堀に囲まれた建物群が描かれていますが、ここは「二の丸（現在の市立博物館付近）」とされ、この建物こそが城主が住む「二の丸御殿」です。どうやら、川越城では城主は二の丸に住むことになっていたようです。ところが…。

弘化 3 年（1846）4 月 15 日、二の丸御殿の台所付近を火元に城内で大火災が起き、劫火がたちまち二の丸御殿を焼き尽くしました。今からちょうど 180 年前のことでした。城主に住まいがないとは一大事。家臣たちは大急ぎで城主の御殿を建てることにしましたが、同じ場所に御殿を建てるわけにはいきません。大型機械がある現代ならともかく、人力しかない当時、火事の片づけは容易なことではなかったのです。この

とき、「御成り御殿」がなくなって空き地だった本丸に白羽の矢が立ち、嘉永元年（1848）、現在も残る本丸御殿が城主の住まい兼仕事場として建てられました。

完成から 20 年。徳川時代が終わると城の役目も終わり、川越城は早々に解体されました。本丸御殿も多くの建物が失われていきましたが、明治 6 年の廃藩置県の際に、「入間県庁」を「旧殿を以て」とあるので、現在も残る玄関部分は解体を免れたことがわかります。

川越城本丸御殿は、日本の近代化という大きな歴史のうねりの中で、奇跡的に残った貴重な建物なのです。



獲物を担いだ男たちが、家光の待つ本丸御殿に駆け込んでいく。

（江戸図屏風・部分）